

- 資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応

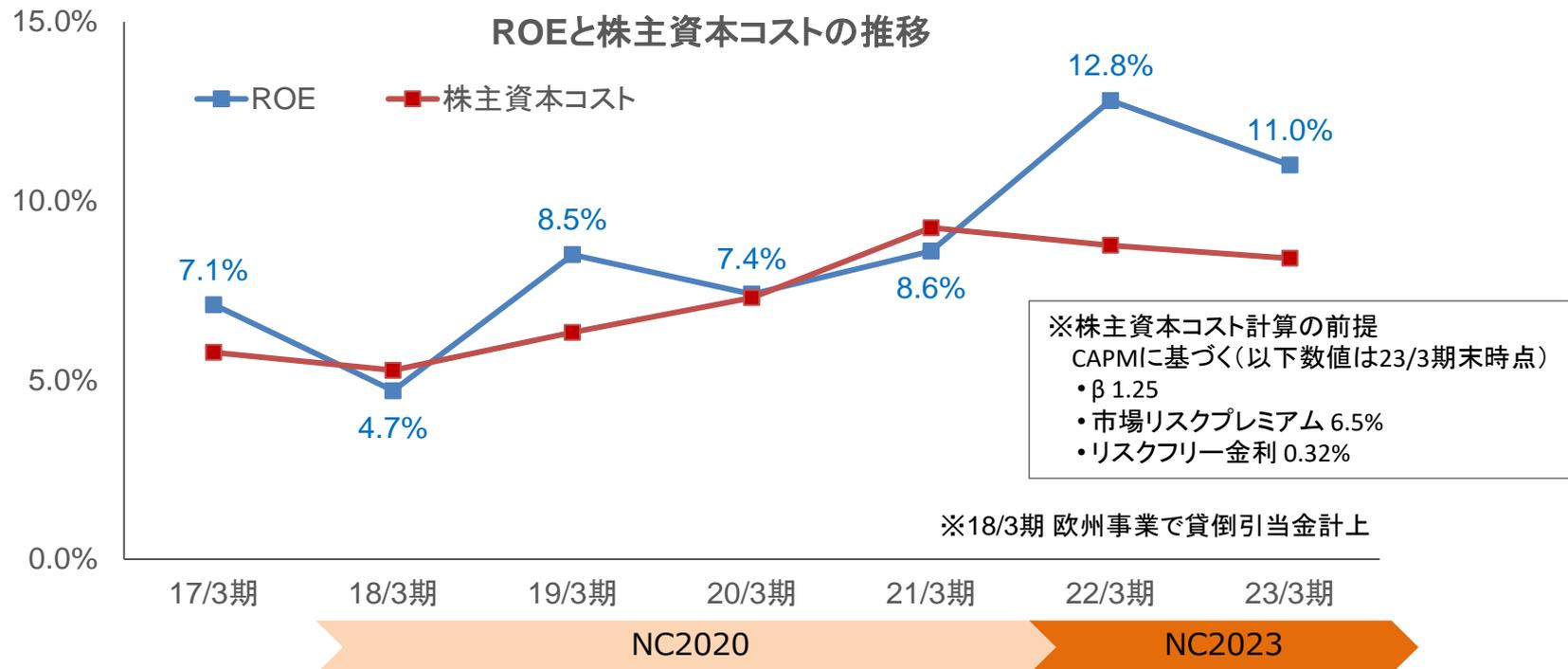
実績の振り返り ～当社の取り組み

**「NC2023」2年目までの実績**

<p>収益の拡大</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 22年3月期は売上高、利益水準が大きく向上し、過去最高を記録</li> <li>• 23年3月期も売上高、営業利益は過去最高を更新</li> </ul>
<p>資本（資産）の コントロール</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 22年3月期から株主還元を大幅拡充</li> <li>• 自己株式取得（2期累計で101億円・412万株、消却638万株）</li> <li>• 政策保有株式を計画通り縮減</li> <li>• 普通社債の発行</li> </ul>
<p>投資</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「NC2023」2年間の累計で約90億円実施</li> <li>• 今後の成長のため、加速させていく方針</li> </ul>

## 現状分析 ～資本コストと資本収益性の比較

- 「NC2023」に入ってから、ROEは株主資本コストを上回る水準まで向上
- 「NC2023」目標のROE10%以上を維持できれば、持続的に株主資本コストを上回ることが可能



## 現状分析 ～株価・市場評価について

- 業績の伸長、株主還元的大幅拡充等を反映して、株価は順調に上昇
- PBRは目安の1倍には未達も、主にROEの向上が寄与し上昇（23年5月末では0.90倍\*）
- PERは低位の水準でほぼ横ばい。現状は、投資家から見て、当社の将来の利益成長への期待値が低い状態であると推測される

\*23年5月末株価終値÷23/3期末一株当たり純資産

株価・時価総額の推移



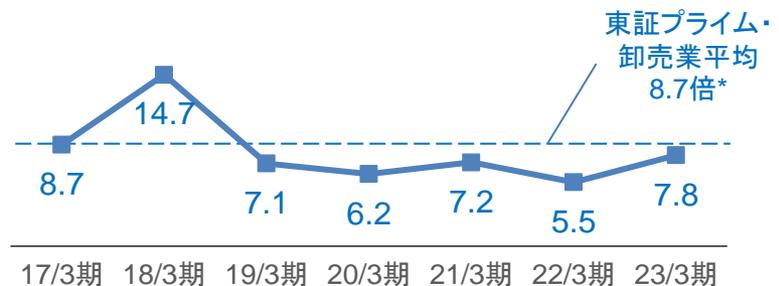
ROEの推移



PBRの推移



PERの推移



※18/3期 欧州事業で貸倒引当金計上 ※数値はいずれも期末時点

\*23年3月末時点

## 現状分析 ～サマリー

---

- 「NC2023」の期間中に、資本コストを上回る収益性水準に到達することができている
- 市場評価については、向上してきているものの、PBRは1倍未満で未だ充分ではないと認識している。今後は成長に向けた投資を加速し、成長性に対する評価を高める必要がある
- 現在の資本収益性の水準を維持しながら、成長施策を加速し、将来の事業価値を高める努力をするとともに、投資家への訴求を強化する必要がある

## 対応方針・目標と計画期間

---

- 2023年5月の取締役会での議論を経て、以下の方針を決定

### □ 方針

①～④を通じて、なるべく早期に、PBR1倍を常態的に超える株価水準を達成する

- ① 成長施策の着実な実行により、事業価値を継続的に向上させ、将来の利益成長への期待を醸成する
- ② ROE10%以上を維持する
- ③ 財務レバレッジの活用含め、資本コストを抑制・低減する
- ④ 自己株式取得の継続実施

## 具体的な取り組み ～事業価値を高め、成長期待を醸成する

- 「NC2023」主要重点施策に沿って、以下の取り組みを実施中。  
早期の収益化を進める

「NC2023」主要重点施策	実施中の具体的な取り組み
1. 主力ビジネスのさらなる深掘りと成長分野への横展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>自動車分野（特にEV車）向けへの注力</li> <li>丸石化学品の子会社化</li> </ul>
2. 将来の成長が見込める市場への多面的な取り組みと確実な収益化	<ul style="list-style-type: none"> <li>バイオマス発電事業への参画（福山市、境港市）</li> <li>環境負荷低減商材の拡販</li> <li>半導体関連企業への出資</li> </ul>
3. 将来の成長に向けた投資の積極化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大五通商の子会社化</li> <li>米国におけるリチウムイオン電池関連材料新会社設立</li> <li>事業企画室の機能強化</li> </ul>
5. 保有資産の継続的見直しと資金・資産のさらなる効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策保有株式売却による成長投資資金の確保</li> <li>普通社債の発行</li> </ul>
6. 人的資本活用に向けた取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>従業員持株会向け譲渡制限付株式インセンティブの導入</li> <li>従業員エンゲージメント調査の活用</li> <li>ダイバーシティ推進に向けた人事制度の整備</li> <li>グローバル人材育成に向けた研修制度の充実化</li> </ul>

## 具体的な取り組み ～ROE10%以上を維持する

- 主に、利益の拡大、利益率の向上と株主資本のコントロール継続により、ROE10%以上を維持する

### □ 利益の拡大、売上高利益率の向上

- 主力ビジネスの拡大
- 利益率が高いビジネスの構成比向上
- M&Aを含む積極的な投資と早期の収益化
- 政策保有株式売却の着実な実施

### □ 株主資本のコントロール

- 機動的な自己株式取得・消却の継続
- 累進配当の継続

総還元性向（概ね50%程度目安）  
の維持

## 具体的な取り組み ～資本コストを抑制・低減する

---

- 直接的な取り組みのほか、間接的な取り組みを進めることで、リスクや市場との情報格差を低減し、資本コストを抑制・低減する

### □ 直接的な取り組み

- 負債の活用（社債など調達手段の多様化）
- 自己株式取得・消却

### □ 間接的な取り組み

- 情報開示の充実
- 投資家との対話の拡大（説明強化）
- 取締役会のモニタリング機能強化による継続的なウォッチング
- ESGスコアの向上による各種インデックスへの採用拡大

## 開示の形式と対話の方針

---

### ■ 開示の形式

- 来期以降も、期末の決算説明会で、継続的に進捗を説明します

### ■ 対話の方針

- 開示内容にもとづいて、担当役員を中心に、投資家との個別面談による対話を合理的な範囲で積極的に実施します
- 対話の内容は、ウェブサイト、コーポレート・ガバナンス報告書等で開示します
- 対話の内容も参考に、改善策を適宜アップデートしていきます